

【 From Kobe 8月 ひまわりの夏 2016 の 便り 2016.8.5 .】

2016年 ひまわりの夏到来 お変わりありませんか
暑い酷暑 熱中症にかからぬようご注意ください

「蝸牛 角ふりわけよ 須磨明石」 梅雨明けを待ちかねたように一斉にセミが鳴きだし、
久しぶりに登った山からは須磨の海が遠くまで見渡せる 気持ちも晴れ晴れですが、酷暑が定番となった暑い夏



今年も奥播磨に原チャリを走らせ、
元気なひまわりに出会ってきました。
黄色のまん丸の顔・顔・顔
一斉にこちらを向いて「よう!!」と
この姿に出会いたくて 通いだしてもう何年になるで
しょうか? 緑の山里を駆け抜ける爽快感と明るいひ
まわり 私の夏迎え
みんなにも ひまわりの元気な姿を届けたい。

「2016 ひまわりの夏

2016.8.5. from Kobe

Mutsu Nakanishi



東播磨 小野のひまわりの丘で ひまわり畑を埋め尽くす 元気な顔に出会えました 2016.7.11.



2016.7.20. 奥播磨 奥播磨佐用 林崎 & 宝蔵寺の郷で

◆ 8月 自らと向き合って 平和の危機「憲法九条を守ろう」

法政大学田中優子氏の憲法論議についての視点のご紹介

2016.8.1. From Kobe by Mutsu Nakanishi

8月1日の神戸新聞の朝刊の「月曜オピニオン 識者の視点」の欄に掲載されていた

法政大学田中優子総長の意見文「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」との記事に目が留まった。今の政治を「理想や理念の創造力よりも 政治の技術を重視し、誇り、それに頼ってことを進めているように見える」と述べられている。

いろんなことが去来する8月 仲間・家族 そして社会のこと等々。でも 毎日がなんとわなしに過ぎてゆく。そのありがたさを感じつつも、見聞する社会の激しさ・異常さ・地球環境変化の おそろしさなど先行きへの不安感は増大の一途を。そして「国際・グローバル化」の衣に包んで ひたひたと進む戦争への踏み込みが急速に進む勢い。刹那的な今の利しか追わない政治が多数派を占め、平和主義憲法の砦「憲法九条」の危機が現実のものに。

いつも 選挙のたびに 感じていましたが、今度ばかりはついに少数派 ほんとなんか… こんなに多数派の人たち婆多いのか…とそのギャップの大きさに意気消失。

最近 は 多数派ではないなあ…と感じることの多いシルバー世代 自分の身の置き所のなさに無力感ただよ。若者が老練な政治に翻弄されているように見えて仕方がないのですが、どうせ 年寄りのボヤキ 口はだすまいと。

そんな8月の初め 心と見た新聞に法政大学田中優子総長の意見文

「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」の記事が目にとまり、勇気づけられました。

(今の政治)は「理想や理念の創造力よりも政治の技術を重視し、誇り、それに頼ってことを進めているように見える」 「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」と。

神戸新聞 2016. 8. 1. 朝刊 「識者の視点」欄 法政大学総長田中優子氏の視点より

田中優子氏の視点の私の理解は次の通り。

今まさに政治・憲法論議の転換点にあるこの時にも

「今の政治家たちは創造力・知恵のなさをひた隠し 政治の職人たちの政治手法に多数の人たちがたぶらかされてしまっている」との視点と読みました。

今の政治家が一番隠したいことに、ズバーと切り込む鋭い視点である。

「平和憲法を守る」というと まるで骨董品のように、そんなことで平和が守れるか?と門切り型の攻撃が来る。

でも 日本が戦後著しい復興を遂げ、繁栄を謳歌できるまでに成長できたのも 戦争に巻き込まれなかったことによることが大きい。昨今の周辺諸国を見るだけでも 明らかですが、多数派はこれを評価しない。

またそろ「そんなことで 国を守れるか…」とほかのことでは「個人・個人という」連中が 異口同音 国を持ち出す。何か信用ならぬ裏があると感じるのは 私だけか……。

また、縄文人は厳しい生活の中で 世界に類を見ない1万年を超える永続社会を維持し続けたことが明らかになっている。ここにもまた、平和を愛する日本人の心・知恵が生きていることに世界が注目する。

「日本の縄文ぐらい 勉強すればいいのに」と思うのですが…

今は受け継ぐ政党もなくなった革新少数派。多数派の思うがままに 少数派の力がますます封じ込められている、そんな 少数派の意見の中にこそ、しっかりと時代を見つめる視点・正論がうずもれている。

今 声をあげねば……。

少数派・多数派どちらにもくみせず、冷静に今も分析するに憲法論議のスタート論・視点 是非 憲法論議 平和を考える視点として 一読・一考をとご紹介。

次ページに 神戸新聞に掲載された田中優子氏の視点を転記させていただきました。

